

令和4年度第2回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和4年12月23日（金） 13時00分～14時40分
2. 会議場 松浦市役所 3階 庁議室
3. 出席者

松浦市長	友田 吉泰
松浦市教育委員会	教育長 黒川 政信
	教育委員 平原 章宏、前田 弘子、吉住 正和、氏山 智美
松浦市教育委員会	教育総務課 教育次長兼 課長 小熊 盛、課長補佐 西岡 智子
〔事務局〕	学校教育課 教育次長兼 課長 松本 政美
	生涯学習課 課長 中野 正和
	文化財課 課長 内野 義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 協議事項：鷹島海底遺跡と元寇ゆかりの地等について
 - ① 鷹島神崎遺跡を活用した日本の水中遺跡保護の進展について
 - ② 水中考古学の専門研究機関の設置
 - ③ 水中遺跡を活かしたまちづくりと世論喚起への取り組み
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	ただいまから令和4年度第2回松浦市総合教育会議を開催いたします。まず初めに友田市長が挨拶いたします。
市長	<p>皆さんこんにちは令和4年度の第2回松浦市総合教育会議をご案内いたしましたところ、皆様年末の大変お忙しい中に委員にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。まずは先の松浦市議会12月定例会で吉住委員の2月以降の任期について教育委員の再選を、同意案ということで提出いたしました。全会一致で議会からご承認をいただきました。2月からになりますけれども、引き続き2期目の教育委員としての活動もよろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p> <p>この総合教育会議も平成27年度に地方教育行政の組織および運営に関する法律が大幅に改定されまして、年2回から3回、学期ごとにできれば開催をするというようなことで行ってきまして、27年から数えて今回19回目の開催となっております。全ての地方自治体において、総合教育会議を開催をして、首長と教育委員の皆様方と連携をしながら、その地域の教育について意見交換をして、より良い成果に結びつけていくというのが目的だろとう思っております。</p> <p>本日のこの会議のテーマにつきましては、10月に元寇の桜を引き上げましたけれども、その効果もございまして全国から大変な注目を浴びているところでございます。教育的な観点から、今後どのようにこの史跡の活用をしていくのかということ、また保存をどのように進めていくのか、こういったことについて皆様方と意見交換、そしてその目的を達成できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
教育総務課長 教育長	<p>続きます、黒川教育長からお願ひいたします。</p> <p>教育委員会を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>本日は、本年度2回目となる総合教育会議を開催していただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、2学期は各学校で感染防止対策を講じた上で、様々な教育活動、各行事が行われました。いくつか代表的なことと言いますと、県中総体駅伝競走大会では志佐中女子が第4位、御厨中男子が第5位という近年にない素晴らしい成績でした。3年ぶりの小中学音楽会でも各学校が素晴らしい発表を行ったところです。また11月27日には市民駅伝大会が3年ぶりに開催され、第1部、そして新たに設けた第2部とも大いに盛り上がりました。</p> <p>そして先ほど市長さんからの挨拶もありましたが、何と言っても、実りの秋、充実の秋を語る上で欠かせないことが10月1日、2日の一石型木製椀の引き上げであります。740年もの間、海底にあった椀が上がってくる様子は、まさに感動的なものでした。</p> <p>本日は「鷹島海底遺跡と元寇ゆかりの地等について」をテーマに意見交換をするようになっております。このテーマは松浦市の魅力と自慢に直結する事柄であり、児童生徒のふるさと教育、ふるさと学習にも直結するものだと考えております。有意義な時間になればと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。以上です。</p> <p>それではこれから協議に移らせていただきたいと思います。今回の議長は市長が務めるという形になっております。この後の進行については市長にお願いしたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。それでは私の方で議長を務めさせていただきます。本日の議題でございます「鷹島海底遺跡と元寇ゆかりの遺跡等について」の協議に入ります。まずは担当課からこの鷹島神崎遺跡を活用した日本の水中考古学、水中遺跡保護の進展について、そして水中考古学の専門機関、研究機関の設置について説明をお願いします。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>お手元の資料、ページ1、2、3とありますがそれを順にご説明したいと思います。</p> <p>資料1枚目「鷹島神崎遺跡を活用した水中遺跡の保護の進展について」ということで表がございますが、これは平成26年3月に策定いたしました、国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書に基づき作成したものになります。この保存管理計画書では、短期、中期、長期の3つの段階に分けまして、それぞれまず短期では水中考古学の拠点に向けての基盤整備、中期では水中考古学の拠点に向けての環境整備、長期では水中考古学の拠点ということで、段階を追って進めていこうとしているものです。</p> <p>現在、中期の段階にあるとご理解あればと思います。短期の目標のことについては、ほぼ達成をしているところです。現在中期を取り組んでいるということになります。今後将来的にですね、長期の部分となっていくと、その拠点を目指すために、水中考古学の専門研究機関の設置というのが大きな課題となってきます。</p> <p>そこをまた掘り下げると、資料2枚目「水中考古学専門機関の設置」というところになるんですけど、赤で囲んだところですが、日本は周りを海に囲まれているという海洋国家でありながら、韓国とかヨーロッパなどに比べて水中考古学研究の分野については遅れている状況でございます。これもいろいろな理由があるんですけど、四角の3つ目が特にそうなんですけど、日本国内の周知の埋蔵文化財包蔵地、埋蔵文化財包蔵地というのは、例えば陸上であれば開発をするとなった場合、届け出を出さないといけない場所が46万</p>

8千ヶ所ございます。陸上であれば、この辺では、里の田原とかは、家を建てる場合などに届け出を出さないといけないのですが、水中遺跡で周知化されているところが、387ヶ所しかない。0.1%という状況です。まず水中遺跡の保護を進展させるためには、水中遺跡の周知化というのも大きく進めていかなければなりません。

鷹島は40年来の調査の歴史があるということで、この水中保護の先頭集団というところも見ていただきたいんですけど、他にもですね、単独で突っ走っていても、日本国内の水中保護に結びつかないと思うので、先頭集団を作りたいというのが一つあるということです。水中遺跡の調査をした自治体だとか、実際にしている自治体、把握していない自治体などを集めて世論喚起を行い、水中遺跡保護に関係して、将来的には鷹島に水中遺跡を保護する組織、部署を作りたいというのが要望に結びついていくという流れです。

このようにですね、水中遺跡の保護を鷹島が中心となり進めていって、国にそういった部署を作ってもらうためには、「トリガーとなって世論喚起」となっていますが、やはり日本国内は盛り上げる必要があるということで3枚目をお願いします。

1番目「水中遺跡を活かしたまち作りと世論喚起への取り組み」ということで、市長のアイデアもふんだんに盛り込まれているんですけど、盛り上がりを促進するために、例えば国内世論の盛り上がりということで、2番目「水中遺跡を有する国内外の地域や元寇に所縁のある地域との連携促進」については、例えば元寇サミットなんかがその一例となります。

3番目「元寇から国を守った鎌倉武士等の活躍を伝える物語の創作と発言」。これは海外から攻めてきたというよりも守った日本人の方をフィーチャーした方が感情移入しやすいんじゃないかというところが一つあることです。西海一の水軍の漫画もこの一例になるかと思います。

4番目「元寇の歴史を活かしたインバウンドを含む観光開発～誘致」、これは人の動きができてくれば、こういったことも考えられるということですね。

5番目「元寇遺跡における『攻めの遺跡』と『守りの遺跡』の差別化と世界を俯瞰した活用」、この辺もスケールの大きな話に結びついていくんですけど、鷹島海底遺跡という元寇の船が見つかったように、攻めてきた元軍の痕跡が残った遺跡となります。一方、福岡の西区とか今津とか姪浜には日本の守った側の遺跡がある。こういったところと連携する。それから攻められた場所という、下の段の四角の中の右側ですが、ベトナムにも「バクダン川」というところがありまして、元軍が船で攻めてくるときに、杭を打っておいて、満潮のときにおびき寄せて、潮が引いていくと船が杭に引っかかって、それで撃退したというところがありまして、そういったところとも連携して、世界的な繋がりを持っていく。

総括すると日本遺産・特別史跡などを視野に入れながら、国内との連携、県内の対馬、壱岐との関係。それから元寇防塁がある博多。海外のベトナム、そういったところと連携していきながら、将来的に大きな世界遺産として大きな繋がりにつけていく。一方でそのモンゴル帝国、中国や高麗とかの歴史を相互理解、未来志向の関係作りと記載してありますが、国際的に日本が韓国との関係が悪化していたりするのも、韓国が日本の植民地だ、併合していたんですけど植民地だというような言い方をするとところもあれば、実際韓国、中国が攻めてきたという実績もある。なのでお互いに相互理解していい関係にしていきたいと思いますというきっかけにも使ってはどうか、そこにも

<p>市長</p>	<p>結びつけていきたいということでもまとめてございます。</p> <p>一通り説明していただきました。議会でも非常に熱心な議論がなされていますし、民間団体である商工会議所の稲沢会頭を会長にした松浦市歴史観光推進協議会が立ち上がっています。民間団体の動き、そしていろんな報道がある中で松浦市はどういう考えでこれに対応しているのかということをお教育委員の皆様方にお伝えして、この取り組みをしている中で皆様方から疑問やご指摘等をいただきながら、更にこの取り組みを前進できるかなと思っているところでございます。まずは忌憚のないご意見を皆様の方からお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>実は最後に内野課長が説明してくれたこのペーパーは、ベース私が作ったんですけど、松浦の中ですら伊万里湾に沈んでいる元の遺物を多くの税金を使って引き上げることに本当に意義があるのかっていう声も少なからずあるんですよ。ただ、松浦だけがやるとすれば確かにそういう話になるんですけど、国レベルで見たり、世界レベルで見ると本当に貴重な遺物がそこにあるわけですから、やっぱりこれは取りまなきやいけないと思っているんですね。</p> <p>旧鷹島町時代から、40年以上にわたってずっと調査が続けられているからこそ、今があるんですよ。これが継続できてなければ、多分今はないです。ただ、今、先ほど紹介したような声があるっていうのは、やっぱり先ほど内野課長も紹介しました通り、攻めてきた側を一生懸命やっても、なかなか共感が広がらない。でも、そこで戦った人たちがいて、そういう人たちがいかに頑張ったからこそ、結果的には侵略されずに済んでいる。という意味では、やっぱりそういったところの磨き上げとか、歴史的な物語を発信していくっていうところに、まだまだ伸ばす余地があるんじゃないかなと思っています。</p> <p>実際に鷹島に行きますとね、対馬小太郎の墓ですとか兵衛次郎の墓ですとかありますし、元寇記念碑もあり、開田の7人塚とかありますよね。元寇にまつわるスポットはあるんですけど、これを対外的にバーンと発表して、遺物を一緒に見てくださってっていうのが、まだまだだなと思っています。椎山議員さんのご自宅の上に、龍面庵っていう、少弐景資が本陣を構えた所がありますよね。あの存在を鷹島出身の若者が知らなかったんですよ。やっぱりその辺の要は地元で頑張った人たちの磨き上げがまだまだ足りないんじゃないかなというふうに思って、それをクローズアップしてやらないといけないんじゃないかなと思うんですが。</p> <p>実際に鷹島にお住まいで、これまでずっと鷹島で育ってこられた吉住さんに、今私がこういったところがまだ必要んじゃないかということについての率直なご意見をお願いします。それに限らず元寇についてですね。</p>
<p>吉住委員</p>	<p>そうですね、私が結婚してもう二十数年ですね、それまで若いときは、元寇のものをあまり知らなかったんですよ。龍面庵のことも知らなかったんです。結婚して嫁さんの方はそういうのに興味があって、鷹島中回っているんです。それでようやく全部知ってきたかな。鷹島の若い人は知らないというのがそうなんじゃないかな。全然教えてもらってないですね。私達自体、対馬小太郎の墓だけは知ってたけど、七人塚とか全然知らなかったし、昔の年寄りのじいちゃん、ばあちゃんから聞いて、ここにね鶏がいてね、山の中に7人隠れていて、鶏がないから人が皆殺しにあったんだよって、大人になってから聞くぐらいですね。そういう発信が全然なされてなかったのが現実ですね。私的には、ずっと思ってたんですけど、今、国指定になって琉球大学</p>

<p>市長</p>	<p>の池田教授が今、國學院ですよ。そういう人たちを大学をね、押し上げて大学のキャンパスとか、鷹島に作ったりして、研究施設等を作ればもっともっと全国に発信、世界に発信できるのかなと。私なりに嫁さんといろいろ話し合ったんですけどね。</p> <p>今最後の方の大学生、キャンパスっていう意味では、今年の夏も大学生向け、また自治体職員向けの公開講座を開いてですね、そういったところが第1歩かなと思っています。一つの大学に限らず、全国のそういった歴史を学んでいる学生たちっているんですよ。そういった生徒たちのまさにその研修フィールドが全国で何より抜きんで、鷹島はそういうポイントだと思うんですよ。そういったところをやる上で、水中考古学専門研究機関この設置ができれば大学生とかそういう人たちが集ってくる。大学生に限らずその社会人も、これから水中考古学、水中遺跡を活用しようという自治体の職員さんとか、そういった方々も研修に来てっていうことになるのかなと思うんですけどね。まだ、子供が学生の氏山委員、どうですか。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>子供たちは小学校の見学で、バスで鷹島に行って実際に話を聞いたりしてイメージとか湧いていると思うんですけど、多分保護者の方が全然わかってない。私も社会の教科書で見た感じのことぐらいしかわからなかったし、実際、教育委員になっているいろいろ聞いてすごいことなんだっていうのを実感しています。後、陸と違って、水中にある遺跡ってなかなか潜って見に行けるわけでもないの、難しいところもあると思うんですけど。今回、椀が引き揚げられて、全国からいろいろ今注目を浴びているので、今がチャンスっていうか、押し上げていく。松浦市からっていうか、松浦市の市民が正しく理解するっていうのが大事かなと思います。難しく考えず、身近なものに感じてもらうっていうのが大切ですね。</p>
<p>平原委員</p>	<p>資料見せていただいたところで、過去40年とおっしゃったんですけど、ここ10年だけでも結構な実績を出して来られているし、今日、市報を見せていただいて、すごいねって。市長や内野課長の視点、発想がすごくいいなって感じで、最後の世界遺産についても、これだけ関連付けて、歴史的な価値っていうか、遺物も含めてですけど、それはいいなって思いました。僕は最初、元寇ってやるよりも水中考古学っていう感覚で、元寇はお互い国がある話なので、水中考古学の進展ということでいけば、どういうふうに考えればいいんだろうとかと、ずっと難しく考えていたんですけど、逆に言うと、元寇に焦点を当ててやっていけばいいような気もしてきました。元寇遺跡を通じた相互理解とか未来志向の関係作りと書いてあるから、過去の歴史という捉え方をすればいいのかなと。素晴らしいと思っているし、本当努力されていることに敬意を表しているけど、さっき内野さんが言ったときには、水中考古学に関して、国はどの程度意欲があるんだろうとか、確かに難しいというか、地中よりも水中の方がより難度が高いから、そこをどうクリアするんだろうとか、国の関心がどれくらいあるんだろうか、そっちが気になっています。とにかく鷹島しか拠点はないと個人的には思っているんですよ。だってこれだけのものがあるんだからね。それを進めるっていうのが、されているけど、どうしたらいいんだろうと悩むばかりです。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。今、平原委員の方から10年で相当な実績があるということでお褒めいただきましたけども、本当に近年だけでもですね、例えば鷹島神崎遺跡の区域のそばにあった養殖のいかだも、漁協の方とご相談をして、市が補助金を出す形で移転をしていただきました。ですから移転をしていただいたおかげで、それまで調査できなかったようなところも調査で</p>

文化財課長

きるような環境作りに繋がりましたし、何よりもやっぱり海の中を触るっていうときは、やっぱり漁業者の皆さんのご理解がないとできないわけです。そういった意味でも、その連携協定を結んでですね、お互いにそれによってプラスになるような、例えば松浦市が伊万里湾の海底のデータを取っているわけですね。そういったデータを提供して、それを漁業の中に活用いただくとか、そういうことを連携しながらやるということも確認していますし、そういったことが出来ただけでも、将来的な目指している元寇船の引き上げをやるにあたって、大きな前進だなというふうに思っています、そういった取り組みをしているところです。

それと国はどうなんだろうっていうことで、今、平原委員の方からご質問ございましたけど、今年の夏にですね、内閣改造で交代はなされましたけれども、末松前文部科学大臣のところには要望に行きました。そのときに大臣の方からはですね、やはり日本の水中考古学は遅れていると。やっぱり前に進めなきゃいけないと思うよ、ということでやりましょうというようなことで力強いお言葉をいただきました。すぐさま私達が求めているものが形になるかという、まだまだだとは思いますが、しかし、実際に大臣が水中考古学進めなきゃいけないっていう発言をなさったというのは大きな前進だなと思っています、その後の動きで文化庁の方で少し動きがあると聞いていますので、内野課長、説明してもらえますか。

はい。今現在その文化庁では、水中考古学ハンドブックが令和4年3月に発刊されました。付箋をいっぱい付けているんですけど、鷹島に関係するところがこれなんです。鷹島がないとこの本も出来上がっていないんですけども。これが自治体とか研究者や学生に向けてその水中遺跡を調査する際に、こういったことをやったらいいですよっていうマニュアル的なもので、非常にイラストが多くて、分かりやすい内容になっています。

今、鷹島神崎遺跡が指定を受けて、その後本格的に文化庁としては水中遺跡の保護に向けて取り組みを進めていきます。その中で水中遺跡の検討委員会というのを作りまして、第1期、第2期ってなっているんですけど、第1期では「水中遺跡保護の在り方について」の報告がなされましたが内容が難しく文字ばかりです。第2期は、今度は池田先生が委員長となって、ハンドブックを作成し今年度からその周知、いわゆるこのマニュアルを周知していく。広く知らしめていくということで、まずは自治体の関係者に十分理解してもらって、先ほど言った387しかない周知の埋蔵文化財をもっと増やそう、後、これも言われたんですけど鷹島神崎遺跡が、国の史跡になってくると、他にそのレベルの水中遺跡はないです。明らかに海の底に遺物があって、それを確実に調査を行っているところでは他にないんです。なので、鷹島レベルじゃないと国の遺跡にならないっていう線を引かれてしまっていて、一つしかないってなるともう他は付いて来れないというような状況があるので、今登録という緩やかな指定をしましょう。水中遺跡の緩やかな登録をしましょうという動きがあります。

今、その周知化に関して手伝いをしています、今度2月に東京で水中遺跡のシンポジウムがあるんですけど、池田先生が講師として発表されますし、私も呼ばれて、今回、椀の引き上げのクラウドファンディングのところを特に中心にポスター発表っていうのをやろうとしています。また、文化庁からは松浦市がいろいろ取り組みやっていますね。元寇サミットで、「てつはう最中」とか、「ポロシャツのクラブファン」とかありますので、出展しませんかと言われました。売れるものが何かあるかなということで「図録」

	<p>と「キーホルダー」と、「ガチャガチャ」は間に合わないんですけど、ポロシャツのクラファンの受付もやって、地道にですね。成功事例として、上手くやっているところ見せないとならば、追従してくれないのかなってところがあって、そういうのもやるようにしています。</p> <p>国の方では、独立行政法人文化財保護機構の奈良文化財研究所の中に、水中遺跡の保護を進めるためのプロジェクトチームが作られる。予定では、新年度に組織が出来たという事をアナウンスすると聞いています。国の概算要求で、去年が1,900万だったんですけど、今年は2400万に増やすというところまで聞いています。</p>
市長	<p>着実に国もそういった動きが出てきています。これは、鷹島のこれまでの40年にわたる成果が、間違いなく国を動かす大きな力になっているということで、引き続き、国に対して要望していかなきゃいけないと思っているところです。議会も非常に熱心で、多くの国会議員の方々に、国のプロジェクトでやってこれたということで働きかけをいただいています。市長は政治家なんで、どんどん動けるんですけど、行政としては、他の国会議員さんに動けるところが非常に限られている。特に内野課長が市の文化財の課長として動けるのは、文化庁には行けても、政治の世界にガンガンってというのは出来ないんですね。そういった意味では、市議会の皆さんが積極的にやっていたので、役割分担をして、政治の世界では世論喚起を議会の皆さんを中心をお願いして、我々としては、まずは行政として、教育委員会として研究をしっかりとやって、そしてまずは国の方を動かして行くというようなことをやらなきゃいけないなと思っているところです。議会からはもっともっとやろうとはっばをかけられますが、着実に動いているというところについては、ご理解いただきたいと思います。ところで前田委員、実際に松浦地域は今言ったように松浦党があってですね、元寇との関わりを少なからず歴史について勉強している方々がいらっしゃいます。福島も元寇のときの慰霊碑、お墓があったりして、その実際に福島地域の皆さんの捉え方がどうなんだろうなという意味でいかがでしょうか。</p>
前田委員	<p>梶を引き上げる前に、私ポロシャツを着て民生委員の会合に参加したんですね。そしたらもうすぐやもんねって言ってですね、民生委員さんたちが何人も楽しみよねって言って、そういう話をしていたので、私もどのくらい皆さんが興味を持っているのかと思ったら、何人からも声掛けがあったから、よかったねって話をしたので、福島の方たちも興味関心があるなっていうふうには思いました。</p> <p>それと何より私は元寇サミットがあったときに、壱岐の白川市長さんですけども、元寇の話をして、多分教育委員会で話をしたと思うんですけど、私が3年か4年の時にモンゴルが攻めてきて、手に穴を開けられた人たちが連なっている絵を資料館で見ました。本当はあれには、白川市長さんがおっしゃっていましたが、船に吊り下げられ引っ張られている絵だったんですけど、非常にショックだったのを覚えていて、そういう元寇に関して、松浦と壱岐と対馬とサミットがある、いろいろな視点で話をする機会があるのは、小さい頃見たのが表に出てきているっていう、そういうことを体験させていただいたのがサミットでした。</p> <p>ですから対馬、壱岐、松浦、博多それからベトナムというふうに、特別史跡、世界遺産に向かっていっていらっしゃるっていうのはすごくロマンだな、夢だなっていうふうなことを感じさせられます。とても嬉しいです。</p>
市長	<p>ありがとうございます。このときはですね、対馬、壱岐、鷹島で県内3地</p>

だけなんですけど、実際には平戸の薄香沖にも船がいたとか聞くんですね。平戸とか生月が元寇から襲撃を受けたのかってどうかというのは、私も知らないんですけど、ただ繋がりを求めていくときに、これに平戸とか唐津とか伊万里とか、そういったところも繋ぎながら、よりネットワークを大きくしていくっていうのが必要だなと思っています。

実は今日ですね、西日本新聞に博多物語というのが載っています。これは博多にある蒙古の史跡、蒙古山という蒙古が最初に陣を張ったところ、上陸したところに、碑があるらしいんですね。元寇で日本人も元軍もみんな亡くなっている。そういったお互い亡くなった人たちを慰める記念碑みたいな形で建っている。これが西方沖地震の時に倒れて、これを建てなきゃいけないって言ったのが、そこを訪れたモンゴルの人で、そしてみんなで建てた。だから正にこの所で、これを平和、友好に使う、そういうとこを生かしてやりましょうと。更に最後の方ですね、博多周辺には元寇にまつわるいろんな遺跡があって、世界遺産の価値があるって書いてあるんですよ。これは割と私が言っている意味と近いところがあってですね、だからやっぱり繋がっていくことでいろんなことができるのかなと思っています、更にここにも書いてあるんですが、令和6年がですね、文永の役、1274年ですから、ちょうど750年ですよ。ここにも書いてあるんですけど、再来年が750年になるので、それを生かしているいろんなことをやりたいということが新聞にも書いてあります。

先日、福岡市の今津校区の自治会の役員さんたちが、松浦市役所におみえになりまして、まさに750年に向けて元寇のいろんな取り組みをしたいと思っている。ついては、松浦市も一緒になってやってみませんかというようなことだったので、我々も750年に向けていろんな取り組みをしたいと思っているので、ぜひ一緒にやりましょうというお話をしてきたところです。

そういった取り組みをする上で、実は今日皆さんにこれを配ってくれてお願いしたんですけど、松浦市が10月29日から1月末まで松浦、壱岐、対馬そして一部福岡もありますけど、連携してですね、元寇サミットをやりましょう、元寇サミットで交流宣言を締結して、その中で連携した取り組みをしましょうという第1弾がこれなんです。もっと早くやりたかったんですけど、コロナの影響でなかなか行き来できない状況ということで、やっと出来ました。タイミング的にこの冬1月は良くないなと私思っているのが、対馬が荒れると船で行けなかったり、しかも対馬のポイントが山の上で冬に行くのは大変だというのがありましてね、時期はどうだったのかなと思いつつも、こういった取り組みが出来ていて、福岡にもですね、4市連携の分では、管崎宮とか博多駅だとか、福岡市博物館とか、そういったところも加えたものがあるんですね。こういった取り組みを少しずつ広げて、ネットワークをどんどんと広げていければなと思っています。

これで松浦を見てても、本当に福島がないんですよ。だからこれまでの中でやっぱり福島で松浦党とかそういうものにまだ磨き上げができてないっていう証拠だろうなと思うんですね。だからこれから福島地域における文化財だとか、例えばそういった物語の伝承だとか、そういったものを生かす中で、福島にも何らかの元寇にまつわるものを想像していくというのが大切かなと思います。

こういった取り組みをしながら、水中考古学にまつわる研究施設を作りたいと思っているところでありまして、そういった総合的な面で、ぜひ皆様方から今後の取り組みへのご意見、ご質問などお聞かせいただければと思いま

前田委員	<p>す。よろしくお願ひします。</p> <p>はいどうぞ。前田委員。</p> <p>先ほど氏山委員さんの方から、子供たちとかには学校のクラブとかいろいろなところで水中考古学とか広がっている。大人の方がということで、出前講座なども少しずつ広がってきているので、もっと広げるために、楳を引き上げられたときに寄付をされた方の中から、30人、40人の方が見えられた。その方たちは本当に興味関心が強い方たちだろうということをお内野課長さんが教育委員会の中でおっしゃられたので、その方たちをこれからも関係者みたいな感じで何かある度にイベントに参加してもらったり、協力してもらったり、自分の地元に戻ってもそこからいろいろ発信してもらおう、活躍してもらおうのはどうかなって思いながら、今回それだけしか考えられなくてですね。内野課長がおっしゃった共感を持ってらっしゃる方が鷹島にいられて、船の上から見られてということだったので、その方たちに働いていただいて、松浦のまちづくりを手伝っていただいたらどうだろうと思った次第です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。クラウドファンディングをしていただいた方々への対応、ニュースなど内野課長の方から説明していただけますか。</p>
文化財課長	<p>クラウドファンディング 1000万の目標金額に対しまして、1152万3000円、目標達成、229人の方から寄付をいただきまして、そのうち59人が見学ツアーの参加申し込みをされました。実際に34名が10月1日、2日に見学者として来られました。繰り返しになりますけど、寄付をした上に、ここまで来る旅費も自腹、滞在費も自腹で、船に関わる費用も1人あたり6000円の現金をいただいて、見られました。皆さん、ありがとうと言って帰られたような状況です。やはりそれだけ関心が高くて共感を得た。この方たちは、本当に非常に大切な人だということがあるので、特典の見学ツアーの他にもクラウドファンディングをしていただいた方には、埋蔵文化財センターの入館料を5年間フリーにします。これは保存処理が続いていくので、その様子を見ていただきたいということ、年に数回ですね、節目、節目に元寇通信みたいな感じで、手紙を送っています。調査成果の概要版を作ろうかなと思っているんですけど、そういったものを送りながら、クラウドファンディングした方々には今どういう進捗があるのか、どういうふうにあなたたちが寄付したおかげで上がった楳がどういう工程になっているかというのを伝えていこうとしています。</p>
市長	<p>内野課長が言うように、そういった方々への繋がりは大それたなと思いますので、ご指摘の通りだと思います。それと、活用という意味では文化財保存活用地域計画を進めていますね。</p>
文化財課長	<p>今の文化財課では昨年から3ヶ年間をかけて、松浦市の文化財保存活用地域計画というのを策定中でございます。これは、ありとあらゆる市内の文化財、登録されているものだけではなくてですね、伝承地であるとか、あとは寺社を含めています。文化財課の表札には松浦市の思い出を大切にすることを書いているんですけども、文化財っていうのが地域作りにとって大切なものであることから、まちづくりに生かしていきましょうという計画になっています。具体的にどういうことを活用しながら文化財を活用できるかっていうところもまとめていこうと考えているんです。</p>
市長	<p>非常に教育委員会と、観光を担う市長部局と線引きが非常に難しいところで、教育委員会が本当に観光の分野にどこまで入り込めるのか。この取り組みは、文化財課でやってないんですよ。地域経済活性化課の観光部門でやって</p>

	<p>いるんですよ。でもやっぱり観光をやる上で、元寇への調査とかそういったものと切り出せない部分があるんですね。だから今、保存活用地域計画の中でいかにその文化財を見に来た方々が、地域に経済的な効果をもたらしてくれるかっていうことをですね、一緒に考えなきゃいけないなと思っているところですよ。</p> <p>そういった活用の意味で、教育委員会から話が少し外れそうですけど、活用の面で、皆さんの方から今の保存活用計画、その範囲という捉え方でご指摘等やご質問、ご意見があればと思いますけどいかがでしょうか。</p>
吉住委員	<p>話が戻りますけど、先ほど市長が言っていた文永の役から 750 年祭があると言われましたけど、私うっすら覚えでおみこしとかして。今 50 歳で。700 年祭のお祭りの覚えがあるんですね。そのとき大々的に鷹島町を上げてしたのを覚えているんです。ここ数年コロナで、元寇記念祭、今年も中止になりましたけど、そうやって 750 年祭をするんだったら大々的に一緒にしてするっていうのもいいのかなと思ったんですけど。そういう話ってあるんですか。</p>
市長	<p>今、吉住委員がおっしゃるような、750 年祭っていうものを催し物とするっていうことが決まっているわけではありません。ただ、40 年前に鷹島で 700 年祭があった。時期的に行くと、まだ、この調査研究が始まる前なんですよね。昔から鷹島の元寇の終焉の地って言われてた頃で、ほぼ時間はあんまり変わらないんですけど。</p>
文化財課長 市長	<p>弘安の役なので 1281 年の 700 年後、1981 年ですね。</p> <p>弘安の役の 700 年のお祭りを大々的にやっているわけですね。鷹島にゆかりがあるのは、1281 年の弘安ですね。いずれにしても、旧鷹島時代にそういった盛り上がりがあったということは私も聞いていますし、慰霊祭というような形でやれるかどうかっては、関係者の皆さんとの意見交換も必要だなと思うんですけど、まずはやっぱりそういったゆかりのある地域と繋がっていく。この機会に集まりましょうっていうのはやっぱり元寇 750 年、50 周年っていうのは訴えやすいと思っているんですね。</p> <p>先ほど皆様に保存活用の件でご意見をっていうふうに申し上げたところですが、私自身も国に要望に行く中で、先ほど末松大臣のお話をしましたが、そのおおよそ 1 年ぐらい前にですね、文化庁に行ったんですよ。文化庁の長官の次に偉い官房長という方にお会いをして、この取り組みについて、ぜひ文化庁として、前向きな取り組みをお願いしますと話をしたときにですね、事務方トップの官房長がおっしゃるには松浦市だけが盛り上がりつつもやっぱり国がやるんだから駄目なんです。だから、先ほど課長が冒頭説明したトップ集団というのは、単独走じゃ駄目なんです。やっぱりトップ集団を作って多くの皆さんの共感を呼ばないと国はなかなか動かないっていうのがありまして、そういった意味では、今ご指摘の 750 年というのは呼びかけるにはふさわしい年だし、ここに今書いているのはゆかりのある遺跡だとか戦った場所とかになってるんですけど。熊本県の菊池市の市長さんですね、今年、九州市長会というのが大分でありまして、たまたま分科会で指定された席がお隣が菊池市長さんで、名刺交換をして、そしたら菊池市の市長さんが松浦って松浦党ですよとおっしゃるんですよ。それでそうなんですよという、では私たちと戦ったり仲間になったりしたんですけど、っておっしゃるのです。どうしてかという菊池一族なんですよ。菊池一族がまさに元寇で戦ってるんですね。その後、菊池市さんのホームページを見たらすごいんですよ。菊池一族プロモーション推進室とかあるんですよ。そしてアニメーションを作って、少女漫画の主人公に出てくるような菊池家の党首みた</p>

	<p>いなのがいてですね、そういうプロモーション活動をなさっているんですよ。で、何を謳っているかっていうと、菊池一族がこの元寇、文永、弘安の役でどれだけ活躍したかっていうのが書いてあるんですよ。それが地域の誇りみたいにして使われているんですよ。そのときにその市長さんが私におっしゃったのは、竹崎季長は熊本の宇城の辺のですね、肥後国の御家人で。蒙古襲来絵詞に描かれています。、あそこもその人も言っていると、自分たちが元寇で戦ったから今こうあるんだって言ってる。そうするとですね、多分菊池以外にもそういうことを言ってる地域や方々っていうのはたくさんいるんじゃないかなと思うんですね。そういった方々と戦った日本人側のネットワークを作る。そしてそれによって皆さんと一緒に合意形成を図りながら、世論を盛り上げていってはどうかなと思っています。</p> <p>そのときに呼びかけるのが750年、一つの節目なんだろうなと思うんですね。この辺りを生かしながら、これはもう完全に文化財課の範疇を大きく超えているんですけど、でも松浦市が目指すこの水中考古学の拠点作りっていう、本当に文化財課が取り組んでいるものを生かす上で、そういった連携ってのが非常に必要になっているものですから、ぜひ皆様にもいろんな形でご助言やここに実はこういう人がいるんだよっていうのがあれば、教えていただければなと思っています。</p> <p>この辺どうですかね。ぜひ皆様のご意見を伺いたいのは、こういった取り組み、皆さんもぜひやるべきだとか、もうちょっとこうなんじゃないかっていうご意見があればぜひお聞かせいただきたいなと思っております。どうぞ。</p>
平原委員	<p>内野さんにお尋ねしたい。市長が言われるように僕も元寇750年。元寇っていうくくりでやっていて、元寇で水中考古学ってやっぱりこの前の椛が上がったというあれはもう、スポットライト、目玉だから。大学あたりで水中考古学をやってるような学校とかいうのがあるの。少しは。</p>
文化財課長	<p>今、水中考古学を教えているっていうのが東海大学が木村准教授が生徒にしている、今年から帝京大学の佐々木蘭貞さんが行かれたんで、多分やるでしょう。</p>
平原委員	<p>琉球大学は。</p>
文化財課長	<p>琉球大学はやってないんですよ。研究というのが人についていくので、池田先生は國學院大学に行かれて、琉球大学と一緒に今調査をしてない。この間の椛の引き上げに関しては、佐賀大学の宮武教授。今言いました東海大の木村准教授。そういった方々に関わっていただいています。</p>
平原委員	<p>水中考古学に関してはもう鷹島しかないぐらいだから、学生達を実習教育実習じゃないけど、ちょっと現場を見せるとか、練習させるっていうふうな、研究施設を作るっていうのがテーマなんだけど、何日か1週間でも10日でも勉強できるような環境を作るとかそういうのもあってもいいかなって気がしているんですよ。それ以外に内野さんが言われているように、水中考古学としてきっちりわかっているところってないわけでしょ。だから本当に好きな人は、やっぱり鷹島で、本当は国指定だから、そこは除いても、よその部分でもいいから、ちょっと潜って勉強したいなとか言うときに対応できるような、それぐらいから始めてもいいかなって思ったりもするんですよ。内野さんが学生だったら、来たかったでしょう。</p>
文化財課長	<p>実は来てたんですよ。</p>
平原委員	<p>メッカになるはずだから、元寇で大きくくくりながらもいろんな人物と</p>

<p>前田委員</p>	<p>か、史跡を見つけながらも、やっぱり水中考古学。モンゴルの元寇の一つとしてやっぱりここの遺物がある。というふうに、1週間、変えたら、宿泊施設だったらよかよ。宿泊施設もあるし、勉強もできるよとか。ただ教える人が、行政で対応できるのかどうかちょっとわかんないんだけど。</p> <p>宿泊とかも補助したりとか、できるのかわかりませんが、そういうのは無理でしょうか。</p>
<p>市長 文化財課長</p>	<p>今行っている、わくわく水中考古学講座はどんな感じですか。</p> <p>去年はコロナ関係でリモートだけでしたが、今年8月に3日間、わくわく水中考古学体験講座 in 鷹島を県が主催、松浦市共催で行いました。全国から27人の大学生と自治体職員が参加しました。ほとんどが大学生なんですけど、実際鷹島に来て、池田先生の講義に保存処理とか、そういったいろんな講座もあり、我々も講師となって実際の船上見学ツアーとかを行いました。あと本当は潜らせたいところですけど、やっぱり鷹島の海となると船からエントリーしないとイケない。それに実際、遺物がある所が最低でも20メートルぐらいの水深がある。透明度が悪い。いろいろ条件があって、なかなか潜らせることが非常に難しいところがあるので、潮が引いたときに遺物が沢山落ちていて海岸を見せることまでをやりました。</p>
<p>市長</p>	<p>シュノーケリングとか、そういった程度だったらやりたいなっていうのはあるんですけど。ダイビングライセンスを持っているからといって必ず出来るわけじゃないので。学生が潜るとなれば、慣れている人が必ず1人、2人ついておかないとイケないと思うんですよね。となるとなかなか難しいですし、この間、舵を引き揚げたときも学生が見に行きたいと言いました。そうするとその学生のために誰かを1人つけなくてイケない。なのでこの1人つけておく経費を持てれば、できると思います。参加させないと研修にはならないので、参加させないとイケないんだろうとは思いますが、簡単にはいかない。今回の舵の引き揚げは、視界が狭かったの。ただ水がきれいな状態の所もあるんで、そこではできないかという話があります。今、構想中です。</p>
<p>市長</p>	<p>今、平原委員からの御指摘で、松浦市が目指している水中考古学専門研究機関を設置してくださいというときに、いきなりこの設置にはならないと思うんですよね。ずっと段階を踏んで、そういった組織ができて、建物ができてっていうふうになってくると思うんですけど、実際にどういういったことができるのかっていうのは、鷹島をフィールドにして、今課長が言いましたように、段階的にこんなことが出来ますよって、全国の水中考古学に興味のある生徒たちを集めてこんなことが出来ますよっていうのも、今長崎県がやり、それを市と一緒にやっていますけど、これはやっぱり国の事業でやっていただいて、国に行って今課題となっている、不安にならないような、事故を防ぐためのそのサポートしている方々をつけるだとか、そういったことを国のプロジェクトとしてやっていただければ、次から次に行くのかなと思いますんで。今平原委員からのご指摘、それと内野課長とのやり取りを聞いていて、まさに今後こういったことをまず第1弾としてやってくださいっていう働きかけも必要なのかなと思いますね。泊まる場所もありますから、今2泊3日ですかね。これをせめて5泊6日、1週間ぐらいやって、残りの2日で浅めのところからまず入っていくんですね。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>床浪の方に行くとも透明度があって、5メートルぐらいでも見れるんですけど、ただここが、船から入らないとイケないんですよ。ポートエントリーっていうんですけど、ちょっとハードルが上がるんですよ。ビーチエントリー</p>

市長

とって陸からじゃぶじゃぶと入っていくのと、いきなり船から足のつかないところにドーンといくもんですから、ダイビングのやり方ですけど。そこが慣れれば、人数を絞れば可能かもしれないですね。

そういったアプローチを国に求めていくっていうのは、先ほど言ったように、水中考古学のハンドブックができて、これから周知をしていくっていう中で、やっぱり必要でしょうね。そういう中に一緒に自治体の皆さん、水中遺跡があるってことがわかっている自治体の職員さんとかにも来ていただいて、取り組みをやってもいいと思うんですよね。

さっき課長が言いましたけど、文化庁に実はこれまでの取り組みをまとめた資料を持ってですね、私も説明に行ったことがあるんですけど、そのときに鷹島小学校の子供たちが元寇遺跡について学んで、それをこれから自分たちがそういったものをやりたいっていう弁論大会の原稿をつけたりですね、実際に元寇サミットをやって、てつはう最中を作りましたとかそういう話をしたときにですね、文化庁としていろんな自治体に働きかけるときに、その遺跡を活用してどんなことができるんですか。要は経済効果が何かあるんですかっていうようなことを言う自治体がたくさんあると。そういった中で、松浦市の取り組みは、この水中遺跡を活用してここまでやられている。こういうのがあると我々も言いやすいっていうんですね。褒めていただきました。やっぱり文化庁としては、保存活用したいという思いがあらわれる。でも、それを実際にやる市町は、および腰ではなかなか動かないですから、そういった中で、我々取り組みが非常にモデル地域でいいですねっていう話をいただいています。だからこそあのハンドブックに、あれだけ付箋がつくぐらい鷹島が掲載されているんだと思うんですけどね。なかなかこういったことを一般の市民の皆様方にお伝えする機会もないので、今日、本当にこうやって教育委員の皆様方にまずその取り組みをお話して聞いていただけると非常にありがたいですし、今後もいろいろ取り組み中でお気づきの点があればですね、いろいろご指摘いただければと思っています。

福岡市が乗り気になってくると非常にいいんですけどね。この間来られた福岡市西区今津校区の皆さんもですね、福岡市への働きかけをやっていると。しかしなかなか福岡市がよしやりましたよっていう感じでもないものですからというようなニュアンスでしたね。

先ほど、菊池市の市長とお会いしたっていう話もしたけども、前日、全体での懇親会があったときに、福岡の高島市長がいらっしゃったので、私も直接行ってですね、ぜひ鷹島の遺跡と福岡の元寇防塁とかの連携を図って、結局なぜこの元寇防塁が必要だったのかっていうことを知る上で鷹島に来ていただくと、より理解できる。だから連携することで、福岡の元寇遺跡についても注目を浴びると思いますのでぜひ連携をというお話をしたときにですね、分かりましたと。担当課長にも事前に会ったわけですから、上がってきたときには適切に対応しますからっていうことを言われたんですね。ですから、今回の福岡市民の皆さんがいらっしゃったので、その福岡市民の皆さんと松浦市や他の自治体が連携して働きかけることで、今まで福岡市の皆さん、今津校区の皆さんがもどかしいなと思ってらっしゃるのを一緒になって動かせればなと思っていますところですよ。

後は、先ほど大人があまり知らないというご指摘もありましたけど、大人の皆さんに、誇りに思ってもらおうとか、興味を持たれる上で何か必要なことをやったらいいんじゃないのっていうのが、もし何かあれば教えていただければ、ご発言いただければと思うんですが。

教育長	<p>いいですか。本当に4月に来て、海底遺跡特別委員会とかでいろいろ聞く度に、何も知らないよねと思いがらおるんですが、やっぱり世論喚起っていうのが市長さんからあって、子供たちは見学にどんどん行って、今年は大形バスも予算を取ってもらっているから、志佐小も志佐中も行けるようになって本当によかったなと思っております。</p> <p>世論喚起で松浦の大人にということでしたんですけど、総合計画を各世帯に配られましたよね。あれがあると、うちの家内もあれ読むんですよ。ですから、総合計画みたいなもので啓発出来ないかなと思って。ありきたりで申し訳ないですけど、本のようにしてこれまでの元寇と水中考古学の取り組みなんかを、あまり厚いと駄目と思うんですけど、薄くまとめたものを配って、水中考古学と元寇とかとでいいと思うんですけど、これまでの取り組みを、さっきありましたサミットとかわくわく体験講座 in 鷹島でありますとか、もちろん椀の引き揚げでありますとか、スタンプラリーとかですね、そういうのも全部なんかパッケージにしてお知らせする。そうすると、実際に足を運ぶ方が増えるんじゃないかなと思ったりしています。</p> <p>後それに加えて鎌倉武士の活躍ということでは、松浦党。時代が時代ですけど、この鎌倉時代っていうのは「なぎなたのまち松浦」と組み合わせられんかなと。牛若丸についていた弁慶ってなぎなたじゃなかったですかね。弁慶は実際の元寇の時代にはおらんと思うんですけど、弁慶の子孫か弟子が、最後この辺にいるという。弁慶の弟子が元寇で戦ったとあって、そういう話面白いかなと思います。</p>
市長	そうですよね。「なぎなたのまち」とくっつけるって面白いですよ。
教育長	なんかなぎなたを使えないかなと思ったりもしながら。
文化財課長	アンゴルモアでは、元はなぎなたじゃなくて刺す。短い刀を槍代わりにつ使う。それまで日本は長い刀を使っていたので。
教育長	アンゴルモアって松浦図書館にあるんですか。
文化財課長	あれはあまりグロテスクすぎるんで子供向けじゃないんですよ。
教育長	大人向けでもいいんですが。なかなか私も読む機会がないですよ。実際、伊万里の書店に行ってみつけても、ここに1冊ありますとか、全10巻とかないんですね。
文化財課長	そうですね、確かにそうですね。元々がネット配信されているからですよ。毎週水曜日に。
教育長	文化財課の山口補佐がそれで勉強したそうなので。
市長	中野課長、どうですかね。図書館に置くには、やっぱり首が飛んだりするシーンがあるんだけど。
生涯学習課長	コーナーの作り方じゃないですかね。子供の所は寄せてあるんで、それ以外のところで。前年度末に元寇コーナー、やりましたよね。特設でやれないこともないですよ。
市長	また、松浦は全く出てきませんが、博多編は佐志房が出てきましたよね。あの人は唐津ですが。
文化財課長	対馬小太郎が出ます。重要な役割をしていますから。
市長	それはぜひ考えてください。
	本当にこれですね、市でやりながらなかなか周知も上手く出来ていないんですよ。せめてスタンプラリーの松浦市のコースだけでも、市民の皆さんに行っていただくと、実は松浦の8番の松浦党梶谷城址は、今、見晴らしがものすごく良くなりましたので。行かれたことがある方は、天守台まで行っても、眺望が悪くていろいろ思われていたかもしれませんが、今びっくりしま

<p>吉住委員 市長</p>	<p>す。まず、あそこの石垣の所まで行ったときの明るさが全く違います。昔からするとこんなに空が見えるかっていうぐらい見えますので、ぜひ機会があれば行っていただくというのと、これ最初の登録がですね、楽天アプリの申し込みがあって、若干面倒くさいんですよ。自分のニックネームを入れたり、メールアドレスを入れてそのメールの返信があってから登録するだとか、若干面倒くさいです。だから家でじっくり時間があるときにやっていただいて、そして行かれるといいと思います。</p> <p>実は私、対馬の7ポイント行けばコンプリートなんですよ。1月に1泊2日で対馬に行って、7ヶ所全部エントリーしようと思っているんですけど、行けばですね、楽しいです。妻と一緒にきましたよ。最初に妻と行ったときにまず松浦だけ回ろうって言うたら、実は妻が携帯を忘れたんですよ。だから、私はしたんですけど、妻は出来なかったんですよ。そして壱岐も一緒に行ってやりました。そしたらですね、やっぱり妻自身もエントリーしたかったんでしょうね。鷹島はまだ行ってないけど、松浦の梶谷城と今福神社と道路公園の松浦党のかぶとはもう1人行ってきたと。対馬行ったら今度は鷹島に行くって。本人が言ったのは、こういう機会がないと、鷹島の原の銅造如来坐像とか、開田の七人塚だとか行かないということです。</p> <p>原とか分かりづらいですね。こんなところにあるって感じです。</p> <p>本当に、この文化財、対馬の仏像みたいに盗まれないかっていうぐらい、本当に立派な物があるんです。そんな感じであるんですけど、地元の方々もご存じじゃないことがあるもんですから、やっぱりこういう機会に行っていただく。残念ながら先ほど吉住委員にお尋ねした龍面庵はこれに入ってないんです。龍面庵に、小式景資の可愛い像もあったりしてね。だから、ぜひ市民の皆さんにも行っていただいて、当然、鷹島文化財センターもポイントですから、引き揚げた椀も見ていただくとかですね。</p>
<p>教育長 市長</p>	<p>冒頭、教育長の方からお話がありましたけども、これは本当に740年前のものだろうかというぐらい、しっかり残っているんですよ。皆さん見ていただいたと思いますけど。あれすごいと思うんですよ。だからあいつたものを見ていただくことで、身近に感じていただく。そして自分たちの住んでいる町にこういったものがあるっていうことで誇りに感じていただいて、今後の取り組みを応援していただくとかですね。そういった共感の広がりってというのが必要だなと思っております。</p> <p>フナクイ虫ですかね。食われた所と全然食われてなくて、木目まで綺麗に残っている部分とかもあってですね。</p> <p>そうですね。松本先生。学校での最近の蒙古襲来のところを扱うときのリアル感っていうか、子供たちに対して教えるときのっていうのは随分違うでしょうね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>まず地元の話ができる唯一の教材ですから、そこは教える側も心して教えているはずだと思うんですが。そしてまた資料等もですね、松浦の鷹島関係の資料もありますので、おそらくそういったものも手に取らせたりしているんじゃないかなと思います。だから中にはそういうのを見て親にあそこ連れてってとかいうのもあるのではないかと。文化財センターまで連れていったよっというところもあるかもしれない。単なる机上の学習に終わらない、そういう発展性はあるだろうと思います。</p>
<p>市長 文化財課長</p>	<p>いろんな入試だとかでね。</p> <p>そうですね。昨年ですかね、センター試験の問題に鷹島神崎遺跡。高校入試も出ました。高校入試の問題がその1年前ぐらい。</p>

学校教育課長	文化財課の方で、かぶととか槍を作っていましたよね。ああいうのは、小学生は嬉しいですね。あれは貸出できるんですか。
文化財課長	体験講座のときとかは必ず持って行って、かぶとをかぶせて、槍持たせて写真を撮ってっていう。ウエットスーツやボンベとか持っていくと喜びますね。
市長	そうですね。先ほどの皆さんにお尋ねしたのは、大人の皆さんへの周知って意味での、前田委員からもありました出前講座とかで、内野課長も出前講座に実際に行って、そこでいろんなご意見があると思うんですけど、どんなことを主におっしゃっていますか。
文化財課長	去年が積極的にやった年で、御厨2回、今福、調川、上志佐など結構やったんですけど、その時は高齢者学級とかに行って、それがきっかけで、実際次は鷹島に行きましょうというふうな流れになりました。やっぱり興味を持っていただければ、行ってみようかっていう流れになったので、去年行ったばかりでまだメンバーも変わられてないみたいなので、今年はやってないんですけど。そういう動きをすれば、やはり話せば興味を持って聞いていただいて、中央公民館はウォーキングをされましたね。橋のところを。なので、公民館講座として鷹島を中心に、プログラムを作るっていうのをやられていました。
市長	松浦市内じゃないんですけど、平戸の高齢者学級で講演したときは、椀の引き揚げを知っている人、手を挙げてくださって言ったら半分以上を挙げられたんですよ。なので、平戸でそれぐらい知られているのであれば、大ベテランばかりでしたけど。やっぱり歴史っていうところがテーマなので、年齢層が高い方が興味を持たれるのかなとか感じるころですね。子供たちは子供たち。今、松浦高校の1年生を100%していますから、あと中間世代っていうのはキーポイントだと思います。
市長	そうですね。20歳の集いで配りましょうかね。1月31日までしかないんですが、地域の取組ですから、地域経済活性化課に言って、ぜひ配ってください。
学校教育課長	VRは使えるんですか。
文化財課長	ヘッドディスプレイもこの間のこども博から復活しました。ただ1人当たり約3分から5分かかるんで、こども博で一生懸命詰めてやっても1日約60人ぐらいでした。
市長	こども博のときの子供たちは、どんな感じでしたか。
文化財課長	やはりリアルだということで、関心を持ってくれるし、ゲーム性をもたせたので、導入をさせて、ゲームやったから今度海に潜ってみようか、船に乗ってみようかっていうふうな感じでやっているんです。それで1クールが大体5分。引っ張り込むコンテンツもあって、やっぱり潜ってみるとリアリティを感じるの。そこまでさせて、実際の海はこんなには見えないんだよと言って、味噌汁スイッチっていうんですけど、濁るボタンもあるので。本当は大人の人にもやっていただきたいんですけどね。その辺は有効に活用して、ただ効率的に回していくようなアイテムではないんですがね。どうしても親の方々はモニターで見て満足されるんですけど、あれはあくまで2Dなので、実際つけると3Dなので、全然違います。
学校教育課長	これからの子供はやっぱり3Dで見られるようにね。
文化財課長	今2台あるんですけど、複数、見れるような感じになるとですね。ただそうなってくるとオペレーションする人が2人いるんですよ。結構子供たち自由にやりますけどね。

<p>市長</p>	<p>本当にこれまでの取り組みが形になってきています。本当に市民の皆さんのご理解とご協力もあってですけども、さらに椛が揚がって、今池田先生をはじめ、保存処理の専門家の先生方なども、いろいろご指導いただきながら、椛の保存に向けたいろんな段階を経ていく。そこもしっかりデータがとられていくわけですから、そういったものを積み重ねて国にしっかり訴え続けていくことが大事だなと思っております。</p> <p>まだまだ、最初の1ページにある計画の中で10年以上というところで、一定の時間はかかるんだろうなと思うんですね。ただ実績ってというのは、まさに一つ一つの積み重ねによって出てくるものですから、後退することなく着実に前進はしてきていると思っています。そのあたりを今後もしっかりですね、教育委員会、市長部局、連携しながらやっていきたいと思っております。</p> <p>ご存知かもしれませんが地域経済活性化課とですね、連携しながら観光の方も必要だということで、今年度からですね、県の事業で地域の観光を磨いて、観光振興に生かすっていう事業がですね、県の方で作ってもらいまして、これいい過ぎかもしれませんが、松浦のために作ってもらったような事業なんです。松浦が計画を出したらすぐその採択を受けまして、一応確約をいただいているわけじゃないんですが、3年間の事業ということで今1年目を取り組んでいます。そのためには地域の皆さんと、今後どのように元寇を中心に、観光振興を図っていくかということをお話し合っていくということと、今後どこをどう生かしていくか、どのように活用するかということも話し合いをするということになっています。ここには史談会の皆さんですとか、歴史観光推進協議会の皆さんですとか、そういった方々にも当然入っていただくということになります。</p> <p>その時に、単純に鷹島だけではなくて、福島そして松浦地域も繋いでいくということが大切だなと思ってしまして、例えば星鹿にも千人塚とか逃げの浦石塁があったりして、鷹島にもありますけど地獄谷があったり、星鹿にも血田とういのがあったり、字名などで福島も初崎の辺になにかあったりするんじゃないかと思うんですね。いずれにしても、初崎の目の前ですから、無いわけじゃないですね。だからあそこに供養塔があったんだろうと思うんですね。</p>
<p>文化財課長 市長</p>	<p>蒙古残念の碑とか。</p> <p>繋がっていきますね。そういったものを周遊できると思うんですね。壱岐に行くんですけどね、私実際行って、朝8時40分の船で行って10時15分に着いて、3時半の船で帰って来れたんですよ。ポイントを回るだけ。もちろん、お昼ご飯を食べて、ちょっと猿岩にも行って、はらほげ地蔵というところにも行ったんですよ。はらほげ地蔵、猿岩を見てルート外ですけどね、3時に戻ってきましたから行けるんですよ。結構、松浦に福岡から来て、福島回って、鷹島を回って、あんまり道も分からないまま、梶谷城に上って、今福神社行って、松浦党のかぶとを見たらですね、壱岐に行っただけの時間では収まらないんですよ。これに福島まで入れていくとですね、周遊としては、滞在時間を十分稼げるんですよ。松浦に一泊してとかですね。今度、福島にはようやくグランピングを着工しましたので、比較的つばきより安く泊まれますので、そういったところに泊まってもらうとか。鷹島はもちろん、そこに頑張ってもらおうとか、この元寇にまつわるものが、今まで松浦で不足してきた周遊観光というものに活かせるんじゃないかなと強く思ってます。これは文化財課の引き続き調査研究の進展がなければ、ここが大事なんですね。実績の積み重ねですから、文化財課の調査研究以外にはないなと思</p>

<p>吉住委員 市長</p>	<p>っていますんで、そういった意味でも、教育委員の皆様方のご理解とご指導がますます必要になってくると思っております。</p> <p>あとモンゴル村の活用をお願いします。</p> <p>そうですね。モンゴル村の活用を、実は若干ちょっと主題とは離れますけれども、今年度いろんな方々に、企業に見てもらったんですよ。実際に現地に見学に来ていただいたところが4社ありました。その4社に対して、実際に活用いただくという意味での事業計画を出していただきをお願いしたんですが、結果的に事業計画が出なかったんですね。出ない理由は、やっぱり厳しいと。採算性が難しい。これから新たにやっぱ今の施設を活用するには、初期投資がちょっとかかり過ぎるだとかですね、そういったご指摘をいただいています。ですから施設活用という意味で、モンゴル村の施設を以前のような形で使うということは、難しいとするならば、他にいろんな活用方法があるんじゃないかなと思っていて、もう少しですね、幅広くいろんな研究しなきゃいけないなと思っています。</p> <p>この間ですね、実は福岡の古い車とか、昭和の車とかを持った方々が、ぜひモンゴル村を貸してくださいということで、地域経済活性化課の方に問い合わせがありまして、何をしたいかっていうと、みんなでツーリング、ドライブに来てそれぞれ自慢の車を、あのモンゴル村の駐車場にバーっと並べてみんなでそれを見る。そのイベントなんです。200人近く来られているんですよ。そのときにみんな弁当が必要なので、弁当は鷹ら島にお願いして、注文してそれを買いますということでやっていただきました。そういったイベント会場としての活用。その時やっぱ指摘があったのは、トイレ以外何も開いていない。もったいないですよ。だから、常に開けるとなるとリスクがあるかもしれないけど、そういったイベントをどんどん呼び込むことで利活用という策もあるかなっていうのもありますし、1番はもっとキャンプ場としての活用も含めてですね、考えなきゃいけないかなと思いますんで、モンゴル村の有効な活用策を引き続き考えていきたいと思っていますので、何か皆様方のご親戚とかご友人で、興味があるような方がいらっしゃれば、ぜひ市役所の方にお問い合わせいただければ、現地も案内してまいりますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>前田委員 市長</p>	<p>すいません。蛙鼻とか大山展望台とかの春の桜とかですね、土谷の棚田とか、季節に応じて、市のこういうのと組み合わせで、上手くイベントができて、ぐるっと回ってこちらの方まで来れるようなルートができないかなと思って、春に2日、秋に2日くらい。</p> <p>秋にお祭りが集中して大々的なモンゴル祭りですとか、福島のふるさと祭りのような大々的なものはなかなか難しいかもしれませんが、実際に桜の時期は桜まつりをやられていますし、ああいったものを上手に併せて行くのは必要かなと。</p> <p>福島についてはですね、新しい福之島ホテルアンドリゾートつばきの運営会社であるベストアメニティと連携をしながらですね、やっぱりそういったところのイベントに生かしていくのは必要だろうなと思っていますし、あそこに来た方がもう福島で終わるんじゃなくて、せっかく福島まで来たから鷹島の方まで行ってみようとか、松浦地域の方に行ってみようとかですね。一番周遊する中でいいのはですね、まず福島に来て鷹島に行って、そして船唐津からフェリーに乗って松浦地域を見るっていうのが、これ本当に周遊できるんですよ。そうすると、鷹島汽船の一定の収入にもなりますから。今おっしゃったように、ぜひ観光の方ですね、史跡巡りを活かしながらや</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>っていきたい。</p> <p>他に皆様の方から、ぜひこの機会に、元寇にまつわらなくても結構です。よろしゅうございますか。大丈夫ですか。ありがとうございました。</p> <p>それでは、本当に今日は大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。そして私どもが、今取り組んでいる中身についてですね、ご紹介する機会をいただきまして、本当にありがとうございました。皆様方から、我々がやっていることについて、一定ご理解をいただけたのかなと思っております。励ましの言葉をいただきましたので、さらに市長部局、教育委員会が連携しながら取り組みを進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。では事務局の方にお返しします。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございました。私の方からは、次回の日程のことはなりますが、市長の方から挨拶の中でも学期ごとに1回、1年に大体3回ということで今までやってきております。3回目は2月中旬か又は3月議会後ぐらいになろうかと思っておりますけれども、テーマについて、何かもしここでございましたら、ご発言いただければと思います。何かありますでしょうか。そのあたり、今協議していただくことがあれば、市長も含めて協議いただければと思います。なければまた、協議をした上でお示ししたいと思います。</p> <p>今、働きかけてすぐないかもしれませんが、ぜひこういうことについて皆さんで議論を深めてみたいというのをお気づきになりましたら、教育総務課の方にご連絡いただきたいと思います。いずれにしてもそういったご意見を踏まえながら、こちらの方でテーマ設定をしてですね、第3回を年度内にできるように努めてまいりたいと思います。では以上をもちまして、第2回の総合教育会議を閉じさせていただきます。本当にありがとうございました。</p>